JMSCA 登山月報 第591号 平成30年6月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

チャンサン氷河からのテント・ピーク(7,365 m)

第４回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会2018 …… 2
FISE Hiroshima 2018 報告 …… 3
氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告… 4
第115回 Mountain World …… 5
ふるさとの山紹介…… 6
新連載『日山協と私』…… 7
ＵＩＡＡ登山部会ポルトガル、リスボン会議を終えて …… 8
平成30年度東北六県山岳連盟（協会）連絡協議会報告…… 10
平成30年度理事会（第１回）報告…… 11
JMSCA、寄贈図書、編集後記 …… 12

No.591

第４回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会2018

鳥取県倉吉市にて、４回目となるボルダリングユース大会を開催した。全国各地から326名の選手が集まり、これまでで最大規模となった。

会場： 鳥取県立倉吉体育文化会館

期日： ５月19日（土）
予選：コンテスト方式（８課題）
５月20日（日）
決勝　：ワールドカップ決勝方式（３課題）

参加： 326名（男子179名、女子147名、43都道府県）

ジュニアでは、前回大会覇者の楢崎明智のパフォーマンスに注目が集まった。予選でただ一人８完登した楢崎は、決勝でも３完登し、同じく３完登の原田海をアテンプト差で退け、連覇した。女子ジュニアは、ワールドカップ代表に名を連ねて経験値を積み上げている中村真緒が、決勝でも２完登し、貫録を見せた。２位には前回覇者の地元出身の高田こころが入り、会場を大いに沸かせた。

楢崎明智

中村真緒

今大会、最も注目を集めたのは女子ユースＢの森秋彩である。小柄な体ながら、鋭い読みと体を目いっぱい活用した無駄のない動きで、予選で唯一全８課題を一撃。決勝でも高い修正能力を発揮し、３完登した。観客一人ひとりが森の繰り出す一挙手一投足に息を飲み、完登したときは人一倍歓声が上がった。２位の工藤花、３位の谷井菜月など、この年代の層の厚さは群を抜いている。ユース世代の突き上げもあり、２年後の東京オリンピック候補に向け、し烈な代表争いから目が離せない。

予選前日の鳥取着最終便が天候不良で引き返してしまうというアクシデントがあり、大会に参加すべく関東から夜を徹して車を走らせ、大会に参加していただいた選手もいると聞く。ご家族、関係者の皆さまの熱い思いに感謝したい。

鳥取県は倉吉を“スポーツクライミングの聖地”とすべく、大会会場となった倉吉体育文化会館の環境整備を行ってきた。２年前に設置されたリード壁に加え、今年３月にボルダリングルームとＩＦＳＣ公認のスピード壁が完成し、３種のクライミングができる全国有数のクライミング施設になった。今年11月にはアジア選手権を同会場で開催する。多くの皆さんの参加、観戦をお待ちしている。　（競技委員　山田佳範）

成　績

男子ジュニア		女子ジュニア	
1位	楢崎　明智（栃木）	1位	中村　真緒（東京）
2位	原田　海（大阪）	2位	高田　こころ（鳥取）
3位	今泉　結太（茨城）	3位	倉　菜々子（愛知）
男子ユースA		**女子ユースA**	
1位	小西　桂（神奈川）	1位	菊地　咲希（東京）
2位	坂本　大河（北海道）	2位	曽我　綾乃（埼玉）
3位	靏本　直生（佐賀）	3位	瀧川　萌美（東京）
男子ユースB		**女子ユースB**	
1位	川又　玲瑛（栃木）	1位	森　秋彩（茨城）
2位	前田　健太郎（滋賀）	2位	工藤　花（山形）
3位	抜井　亮瑛（奈良）	3位	谷井　菜月（奈良）
男子ユースC		**女子ユースC**	
1位	犬竹　那月（埼玉）	1位	小池　はな（埼玉）
2位	安楽　宙斗（千葉）	2位	伊東　そら（神奈川）
3位	通谷　律（佐賀）	3位	森　奈央（三重）

FISE Hiroshima 2018 報告

2018年４月６～８日まで、広島県の旧広島市民球場跡地で都市型（アーバン）スポーツの国際大会「FISE Hiroshima 2018」が初開催されました。ＦＩＳＥとは、エクストリーム・スポーツ国際フェスティバルを意味するフランス語のFestival International des Sports Extrémesの略称で、アマチュアからプロまで多くのアスリートが参加できる大会として21年前にフランスのモンペリエで始まりました。今回の大会では、2020東京五輪で実施されるスポーツクライミング（今回はボルダリングのみ）や、スケートボード、自転車ＢＭＸフリースタイルが加わり、初年度にして約86，000人の観客を動員し、大きな賑わいを見せました。ボルダリングは2017年から実施種目として実施されており、今大会よりＩＦＳＣ（国際スポーツ競技連盟）のWorld Seriesにもなっています。

残念ながら、今回はワールドカップの初戦間近だったため、海外からの参加選手は非常に少なかったものの、フランス、ベルギー、アメリカから参戦し、国内からは日本代表選手に合わせ、地元広島の若手クライマーたちも参加しました。大会初日の６日は、大雨のため全競技が中止となりましたが、７日に男子予選・準決勝、女子準決勝、８日に男女の決勝が行われました。決勝では、ワールドカップに参戦している海外選手を押しのけ、ユースクライマー３人が表彰台を独占、女子は２位にユース日本代表が内定している谷井菜月、３位に日本代表の小武芽生が入りました。

（さいごに…）

初年度で、開催前まで実施が危ぶまれていましたが、地元スタッフの方々の協力もあり、大会は大きな盛り上がりを見せ成功に終わりました。来年も国内で開催される予定ですので、たくさんのクライマーにＦＩＳＥを知ってもらい、参加して楽しんでもらえると嬉しいです。この場を借りて協力して頂いた方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

（記　西谷善子）

【大会結果】

男子	
1位	楢﨑明智
2位	田中修太
3位	土肥圭太
4位	COLLIN Nicolas（ＢＥＬ）
5位	OZUN Clement（ＦＲＡ）
6位	川又玲瑛
女子	
1位	KAISER Clémentine（ＦＲＡ）
2位	谷井菜月
3位	小武芽生
4位	PAYNE Angie（ＵＳＡ）
5位	杉村紗恵子
6位	山下真由（広島県出身、一般エントリー）

氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成30年４月28日（土）～29日（日）

富士山において氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が富士山５合目佐藤小屋を宿泊地、机上講習会場。周辺を講習会場として開催された。

今回は研修13名、Ａ級主任検定員５名、上級指導員養成講習17名、講師８名、鳥取県スタッフ５名の計48名での開催となった。

今年の富士山はゴールデンウィーク直前に好天が続き例年より雪が少ない状況でしたが、講習には問題なくまた、両日ともに晴天に恵まれ、充実した講習が行われたものと思います。

今回は、今までにない多数の参加があり、特に都道府県開催では開催に当たり人数が少なく、運営が難しくなっているせいか、上級指導員の養成講習会の中央開催として多数受講いただきました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

（記：指導委員会　野村）

受講生 感想「氷雪技術研修に参加して」

現在私は、看護師として病院で勤務をしております。４年前から心身の健康の為にと登山を始めました。現在、安全登山に医療的側面から関わりたいと山岳看護師を目指し山岳医療の勉強をしております。登山の知識・技術を一から教えて頂き、今は自分で経験を積み、力を付けていきたいと思いトレーニングしています。

今回、私は氷雪技術そしてセルフレスキュー技術の再確認と技術を高めたいという気持ちで研修に臨みました。実技では講師の先生から基礎技術かロープワークかの選択があり、私は技術を高めたいとロープワークを選択しました。講師の先生は、私のアイスアックスの持ち方を確認した上で「基礎技術をやりなさい」と言ってくださいました。正直落ち込みましたが、基礎技術を振り返り感じたことは、何故そのようにしなければならないか曖昧な状況で、自分の技術になっていないことに気付きました。その技術の本質を知る、そして確実に身につけ経験を積んでいく事が必要であることを痛感しました。２日目は前日の基礎技術の重要性を再確認しながら、滑落停止訓練、ＳＡＢの実技を何度も繰り返し実践でき、身体で覚え技術を深めることが出来ました。また、自分の登山では単独が多くグループを意識しての行動が未熟であることを感じました。グループで行動する上でのリスク管理やメンバーと連携していくためのアドバイスも頂きました。先を予測し行動し心構えをすることの大切さを教えて頂きました。

夜の会では、ご一緒させて頂きました全国各地からの山岳関連の方々とお話する機会を頂き、自己紹介や研修に参加された動機、過去の経験などを伺い、とても感銘を受けました。国際山岳医の先生との出会いもあり、私の目指す山岳看護師のこれからの活動などについてもアドバイスを頂き、とても有り難い時間でした。研修翌日には、茨城県の皆様と研修で学んだことを実践に繋げながら、天気にも恵まれ無事富士山に登頂することが出来ました。厳しい環境の中で何故その技術が必要なのか、やってはいけないのかを再確認しながら、自分の技術を深められたとても有意義な時間となりました。

研修を通して、まずは自ら安全に登ること。その為には、技術の本質を確認しながら繰り返し訓練し、経験を積んでいくこと。そして、山岳看護師として学んだ知識を少しでもお役に立てられるように、自分に出来ることを探していきたい、と今後の目標を見直す機会にもりました。講師の先生方、スタッフの皆様、ご一緒させて頂きました皆様に感謝致します。２日間ありがとうございました。頑張ります！

（茨城県　堀　香奈）

第115回 Mountain World

エヴェレスト・ラッシュ 640人登頂

池田常道

ネパール政府が導入を目指していた新登山規則はさまざまな問題点が指摘され、修正を余儀なくされた。

障碍者の登山規制問題では、全盲・両脚義足などの重度障碍者が6500ｍ以上の山に登ることを禁じるとなっていたが、ネパール最高裁が異議をとなえた。ネパールは国連の障碍者の権利保護憲章に署名しているので、これに抵触するというのである。条項は撤回され、今季エヴェレスト登頂を目指していた中国人シャ・ボユ（69）は５月14日、ミンマ・ギャルジェの率いる公募隊で頂上に立つことができた。

また、シェルパの登頂証明書は一昨年春以来交付されてこなかった。登山者とは「登山料を支払って許可を得た者」で、隊に雇用されたシェルパは登山規則上の登山者に当たらない、という観光省見解に沿ったものだが、およそ500人のシェルパがこれに抗議、シェルパにも証明書が交付されることになった。

また、シェルパガイドを伴わない単独登山を禁じるという項目は、強い反発もなく生き残った。尤も、ガイドを頂上まで同道する義務はないようで、ＢＣ要員として雇用するなど抜け道はないわけではない。

＊

エヴェレスト、ローツェ　今季は５月中旬から10日間も好天が続き、ネパール側から409人チベット側231人の計640人がエヴェレスト頂上に立った。スティーブ・プレイン（豪、36）は５月14日に登頂し、７大陸最高峰を117日で踏破し従来の最短記録（126日）を更新した。プレインとその隊長ジョン・グプタ（英）は翌日ローツェにも登った。エヴェレストとローツェの継続登頂には18／19日にテンディ・シェルパとマット・ウッド（米）、20／21日にウイリー・ベネガス（アルゼンチン）とマット・モニス（米）も成功した。

女性シェルパのニマ・ジャムブ（27）は４月29日にローツェ、５月14日にエヴェレスト、23日にカンチェンジュンガと同一シーズンに３座に登頂した。

チベット側からは５月16日、カミ・リタ（48）が22回目の登頂を果たし、21回で並んでいたアパ（58）とプルバ・タシ（47）を凌駕した。他の二人はすでに引退してＢＣ仕事に就くことにしている。女性シェルパのアン・ラクパは自身９回目の頂上に立った。彼女は2000年に初めて登頂し、頂上から生きて帰った最初のネパール女性である。

単独・無酸素登頂を看板にエヴェレストに通い続けてきた栗城史多（35）は５月20日にＣ３（7400ｍ）で不調を訴え、翌日下降する途中で亡くなった。連絡が途絶えたので撮影班が捜索し、Ｃ２近くで発見した。

アンナプルナ　91年にデナリで凍傷を負い、両手指をすべて失ったキム・ホンビン（韓国、53）が12座目の8000ｍ峰に登頂した。残る２座はカラコルムにあり、この夏一気に登るつもりだという。

ダウラギリ　12座の8000ｍ峰に登っているカルロス・ソリア（スペイン、79）が９回目の挑戦に失敗、次の10回目に賭けるという。なお、シモーネ・ラ・テッラ（イタリア、37）は6100ｍ地点でテントが吹き飛ばされて死亡した。

シシャパンマ　ブルガリアのボーヤン・ペトロフ（45）が単独登頂を試みて行方不明になった。これまで10座に登っていた彼は今季、シシャパンマとエヴェレストをまとめて登ろうとチベット入りした。４月29日に7300ｍ付近を登っているのがＢＣから望遠レンズを通して確認されたが、のちに他の登山隊が彼のテントを発見した。入口が開いたままで、中には寝袋が残されていたという。ネパールシェルパとチベット人から成る捜索隊が送られたが悪天候で現場に近づけなかった。ルカ・リンディッチ（スロヴェニア）とイネス・パペルト（独、女性）のペアが南西壁を狙って入山したが、九死に一生を得た。ミャナン・リで順応中にビバーク地を雪崩が襲い、身一つで飛び出したが、テントや装備は埋没。次のプンパ・リでは強風と歓喜に妨げられ敗退した。

両足義足の身で登頂したXia Boyu

ふるさとの山 紹介

東鳳翩山（734ｍ）

山口県・なぜ方便が鳳翩となったのか？

県外の山好きな方には「山口には山が無い」と思われるほど「山名」を知られた山がありません。登山家の岩崎元郎さんの「ぼくの新日本百名山」で紹介して頂いた各県１座の東鳳翩山（ひがしほうべんざん）くらいなもので、山口市と明治維新で知られた萩市との市境に位置しています。

鳳翩山には東西の二峰があり、東鳳翩山はその秀麗な山容から県都山口市のシンボルで、よく登られているコースの登山口まで県庁から車で10分程の近さです。

昭和６年発行の『趣味の山口』に「東鳳翩山は数十年前に山火事が起こり、それ以来、このあたりの山では珍しく山頂付近に木々は生えていない。」と書かれ、その容態は樹木が増えつつありますが今もあまり変わっていません。標高734ｍの低山にもかかわらず山頂から360度の眺望が非常に良く、霞の無い晴天の時には南側に瀬戸内海の島々、その向こうに九州が望め、西、北、東側は秋芳洞のある秋吉台、日本海、そして周囲を取り巻く山々のパノラマを楽しめ、山頂まで約１時間半ということもあって多くの人々に登られています。

今も古老から「嘘も方便の山」と耳にします。「鳳翩山」、何となく高尚なこの山名も亨保13年（1728）の古図には甑嶽（コシキガ嶽＝ヨシキガ嶽）とあり、天保年間（1830 ～ 1843）にまとめられた『防長風土注進案』によりますと、東鳳翩山のことを、「方便山、一に鳳翩とも書けり中尾村子丑の方に聳へたる高山にして、山の北東面は阿武郡へ附し、是を東方便ケ嶽と呼ふ、……」と記されていますが、その後の『山口県風土記』には「方便をまま鳳翩と書く人もあるが、甚だしきが事也」と記されています。その後も「方便山」の字は使われ、また、

東鳳翩山 山頂

作家の国木田独歩も山口中学時代の作品「山の力」（明治17年頃。定本国木田独歩全集）には東方便山と書いていますが、しかし、国土地理院の地図も今は鳳翩山。

寛政３年（1791年）、毛利家家臣の片山順蔵（号は鳳翩山人）を尋ね来た客人が山を仰ぎ鳳翩山人のようだと称えた漢詩を残したことによるものとの話もあります。

西鳳翩山については「方便山、大石村にあり、……」と記され美祢市側の大石区で西暦1185年に創建と伝えられる「方便山万福寺」跡があり、そこの地区名は「方便」です。創建当時は山の名を方便山と呼ばれていたと推測されます。

山口の名は「山の入り口」が名前の起こりと言われています。毛利氏が江戸への参勤交代の「御成道（おなりみち）」として萩往還道が開かれました。日本海側の萩（昔は阿武郡）と瀬戸内海側の三田尻港（防府市）を結び、山陰と山陽を結ぶ重要な交通路で、幕末には維新の志士たちが往来し、歴史の上でも重要な役割を果たしました。

その中間点の山口市は大内文化の地であり、萩往還道の脇に国宝「瑠璃光寺五重の塔」があります。珍しい檜皮葺の屋根でとても優雅です。

萩往還道の板堂峠から中国自然歩道を歩き東鳳翩山に登ることもできます。この板堂峠から少し下った金山谷には江戸時代初期に萩築城等のため困窮の毛利藩財政を潤した一の坂銀山跡もあります。山口市の地名の起こりは阿武郡への山の入り口、山奥に入ることと併せ鉱山へのヤマの入り口、この辺りにも由来しそうです。

（山口県山岳・スポーツクライミング連盟　小林弘之）

新連載　～創立60周年に向けて～（1）

『日山協と私』

山形県山岳連盟　清野　孝

私は現在72歳、日山協とのお付き合いを調べてみた。山形県で第42回国民体育大会山岳競技会が開催される年の10年前、山形県から日山協に会場地調査の業務委託が行われた。当時山形岳連は加盟団体も少なく競技登山に関する感心も低い状態で、理事長に就任したばかりの私はまだ30代でした。業務委託に関する協議のため、初めて岸記念体育会館の日山協事務局に伺ったことを今でも鮮明に覚えている。事務局には鎌田元会長がおられ（鎌田さんは山形出身でした。）業務内容と日山協との関わり等を親切に指導していただき、その後国体常任委員会の皆さんに国体開催まで様々な面でご支援とご指導をいただいたことがその後の私の山を取り巻く人生を大きく変えた。

第38回群馬国体では審判員に、更に北海道国体の副審判長に、そしてべにばな国体では開催県役員として、又第50回福島国体では審判長を務めさせていただいた。その後愛知、広島と日山協役員として仕事をさせていただき当時から国体常任委員のメンバーには様々な面でご指導をいただき、国体常任委員会を卒業させてもらった。元会長の故斎藤一男さんを親分に一家を構成し、２月には山形の天元台スキー場でスキー交流を、４月には岩木山や八甲田で春の山スキーを、夏には都内で江戸文化を語る会を、秋には山形で山菜や野菜の収穫を兼ねた芋煮会を、今年でもう30年近くも仲間との交流が続き旧交を温めその活動が続いており、その間培った人間関係はますます深化し円熟味を増して生涯継続するものと思っています。

昨年暮れに体調を崩してしばらく入院生活を余儀なくされたとき、時間があることを幸いに自宅の斎藤文庫から多くの書物を取り寄せ読みあさった。斎藤文庫は今から３年前故斎藤一男さんが米沢の上杉まつりをご覧に来県されたことがある。家内と置賜、米沢地方を御案内し斎藤ご夫妻に自宅にお越しいただき、歓談した際書物の話になり少し分けてあげると言われて約一年斎藤さんから書物が届きその数が膨大となったので、地方にはこの位に山岳図書はないであろうと思い斎藤文庫を開設したものである。その中に以前から明治から大正、更に昭和にかけての登山史、特に地元の朝日連峰の史料が多くあることに初めて気が付いた。退院後ようやく朝日連峰登山史をまとめ冊子にすることが出来た。

日山協とのかかわりはまもなく40年を迎える、鎌田さんから日山協参与を進められ現在もまだそのままで毎年参与会のご案内をいただくが地方に住む私達はなかなか出席する機会は少なく申し訳ないと思っている。旧国体常任委員であった皆さんとの交流はまだまだ健在で今年の江戸文化を語る会、青森から徳島までの仲間が参集するのを楽しみにしている、近年は年のせいか多くの皆さんが奥様連れとなった。斎藤さんから送られた書籍を整理したり読みあさったり、文庫に見学にくる山仲間との語らい、まだまだ続く文庫の書籍整理など。自分を振り返って見ると日山協とのつながりが如何に大きな存在であったかが窺い知れる。これからも新しい組織としての協会は国際競技団体として更に、大きくはばたくことを願うものである。

UIAA登山部会ポルトガル、リスボン会議を終えて

ＵＩＡＡ登山部会（Mountaineering Commission; MountCom）の春期定例会議が2018年４月21～22日に、ポルトガルの首都リスボンLisbonで開催された。会議はポルトガルキャンプ登山連盟Federação de Campismo e Montanhismo de Portugal（ＦＣＭＰ）が主催し、９ヶ国11人の参加者があった。

１．ＦＣＭＰ紹介と直面する問題

指導訓練代表のペドロ氏Pedro CuiçaからＦＣＭＰの紹介講演があった。ＦＣＭＰは600のクラブがあり、40,000人の会員で構成されている。また、８箇所のキャンプ場を所有し、キャンピングやクライミング訓練本部がある。登山活動にキャンピングやキャンピングカーが重視されるためか、ＦＣＭＰの名称の中にも、また連盟のシンボルマークの中においても、テントやキャンピングカーがはめ込まれている

現在、ポルトガルの登山界でインスラクターが直面する大きな問題は、ポルトガル法が「すべての登山訓練は国家認定資格取得者だけが指導することができる」と変更されたことである。その結果として、ボランティア指導員は指導禁止となる。クライミングやアルパイン登山におけるボランティアリーダーや指導員の重要性の実証が難しい時代に入った。

２．主なＵＩＡＡ MountCom報告事項と話題について

登山部会における主な討議内容は、登山訓練委員会Training Panel（ＴＰ）関連であった。代表のスティーブ氏Steve Longによって、まず、現在、認定中、あるいは申請を検討する国として、モンゴル、モロッコ、イラン、日本、ＮＡＴＯ、タイに関する報告があった。引き続き、認定上の問題点発生事例として、認定のための査察が入る前に病気による死亡が報告されたため、査察を派遣し、状況の把握を行っているとのことである。一方、ハンドブック（ＵＩＡＡ Alpine Skills Handbook）は継続的に改版し、良心的な価格設定であり、多くの連盟団体、野外活動リーダー、インストラクターなどから指示されてきた。現在はtrad（traditional climbing）やadventure　climbingが追加されている。また、デジタル版もオンラインで販売されている。

３．ＵＩＡＡの将来戦略構想

今回の大きな話題はＵＩＡＡ副会長ピーター氏Peter Farkasにより報告された、「ＵＩＡＡの将来戦略構想」である。理事・管理委員会、直属の「21世紀のＵＩＡＡ戦略ワーキンググループＷＧ」で検討された。Peter氏によると、「現在のＵＩＡＡは、収入が変わらないのに、活動規模が大きくなっていく、管理運営上深刻な事態になっていく」と大きな懸念を示した。このような背景から、ＵＩＡＡの活動に大きな影響を与えるステークホルダー（利害関係者）について経営戦略的に検討している。まずはＵＩＡＡをＳＷＯＴ分析を行い、自らの「Ｓ強み」を強い歴史的・倫理的基礎を持つ。登山教育や安全活動に強みがあり、世界規模での多様な繋がりがある。「Ｗ弱み」は戦略的視点の欠如、不十分な管理と意思決定能力の低さ、キー領域での資金不足、ＵＩＡＡメンバーとしての意識の低さなどである。「Ｏ機会」は登山へのリスク・教育面からの関心の増大、グローバリゼーション、「Ｔ脅威」には自然問題、アクセス限界などを挙げていた。この単純な分析からでもＵＩＡＡトップが自らをどのように捉えているのか分かり易い。

このようにして、自らを分析したうえで、ステークホルダーを２段階に分けている。当然１次的な繋がりに、ＵＩＡＡ関連、加盟団体から用具企業、マスコミまでをすえ、２次的には政府、パトロンなどを位置付けている。このようなベースの下、それぞれの組織に重要なステークホルダーを抽出し、ＵＩＡＡからステークホルダーに提供できる事項の抽出を行っている。

次に、各部会Commission活動をＵＩＡＡ活動のコアとした上で、改革の中心に据えていき、最先端の情報を提供していけるような活動の必要条件を提言している。そして、将来的には各部会の再編成を提案し、さらに、管理執行部、理事会から全体の組織再編にまで及んでいる。

様々な長所短所を持つＵＩＡＡが将来ステークホルダーとどのように関わっていこうとしているのか、そして組織改革のあり方など、その組織運営活動の戦略的見直しは、決して対岸の火事ではない。日山協もオリンピックに向けて、活動幅を大きく広げていく中で、オリンピック後どのように戦略的活動方向を見いだせば良いのか、ＵＩＡＡから学ぶべき事は多い。

４．動き出したＵＩＡＡ承認に向けた夏山リーダー

今回のリスボン会議に向けて、私には様々な課題があった。2015年に日本で開催されたＵＩＡＡ会議を機会にSteveが来日した。この時、日山協、労山合同での

ＵＩＡＡの標準化教育について勉強会を開催した。以来、日山協ではＵＩＡＡの標準化教育承認に向けて体制づくりを開始し、夏山リーダー（日体協資格も変更されスタートコーチ）の形で来年度からスタートすることになった。そこで、次年度よりＵＩＡＡ承認に向けた準備を開始する事になり、私に課せられた仕事はそのための手続きと日本の登山教育の現状をまずはSteveに伝えることであった。勿論、指導実績が伴わないと、承認審査は難しい。来年から夏山リーダーが始まる以上、指導実績を問われると、資格認定に応募できるレベルに達するにはさらに多くの歳月を必要とすることになる。何とか、今までの指導員制度から該当する指導員養成実績を配慮してほしいと考え、交渉することにした。

交渉のキーとなるのは、日体協公認の指導者資格（指導員、上級指導員、コーチ、上級コーチ）において、特に夏冬ハイキングを対象とした「指導員」での指導実績をどの程度、承認に配慮してくれるかが鍵となる。ところが、日体協公認資格で使用される指導員、コーチの英訳が非常に難しい。私の知る指導者関連用語だけでもCoach, Instructor, Technical Skill Instructor, Teacher, Tutor, Leader, Advisor, Counselor, Field Supervisor、Trainer etcとなる。日本のコーチが英国のCoachに相当するのか、そして他国の様々なCoachとどのような相対関係にあるのか分からない。結局悩んだ末に出した結論は日体協の公認資格を番号化表現し、Coach Level1,2,3,,,（ＣＬ１，ＣＬ２…）とすることにした。

Steveには、日体協の公認資格制度には長い歴史があり、すでに約5,500人の有資格者（License　holder）がいることを強く配慮してほしい旨、頼んだが、さて、どうなることか…。

5．第三者山岳遭難事故調査法の照会

一般に、山岳遭難事故調査は、調査方法が確立しておらず、事故者の所属する組織関係者に調査が任されることが多い。当然、調査法が確立していないため、調査者による内容の温度差は非常に大きい。当然、如何に真摯に調査に取り組んだとしても、その信頼性は低い。一方、第三者の立場で事故調査を引き受ける団体もない。日本山岳ＳＡＲ研究機構（ＩＭＳＡＲＪ通称ＳＡＲ）では、この問題に長い間取り組んできたが、まだ、基本構造ができた段階である。現段階での第三者山岳遭難事故調査法の基本構造について、ＵＩＡＡ，登山部会で紹介した。その結果、イギリスなどの国々においても同様の問題が起っており、その内容について関心を持って迎えられた。

最後に、ＵＩＡＡ登山部会での国際山岳遭難事故データ交換については、ＭＲＥＷ（Mountain Rescue England Wales）との打ち合わせが大幅に遅れているため、停止したままであった。そのため、リスボン会議後、ウエールズを訪れ、事故統計担当者と長時間にわたるデータ交換のための打ち合わせを行った。

平成30年度高等学校等登山指導者夏山研修会

高等学校等において登山の指導的立場にある教職員等を対象として、夏山登山に必要な基礎的な知識や技術を習得するとともに、高校生を安全に引率するための能力向上を図るための研修会が6月29日（金）～7月1日（日）に、国立登山研修所で開催されます。登山研修所周辺山域への入山と幕営を含む、実技と理論を合わせた研修会です。

開催日　平成30年6月29日（金）～7月1日（日）
場　所　独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所及び周辺山域
〒930－1405　富山県中新川郡立山町芦峅寺ブナ坂6
ＴＥＬ（076）482－1212　ＦＡＸ（076）481－1534
定　員　30名
申込締切　5月29日（火）

※詳細は国立登山研修所ホームページをご確認ください。← 青字部分に下記のアドレスをリンクさせてください。
リンク先 → www.jpnsport.go.jp/tozanken/syusai/tabid/105/Default.aspx

平成30年度東北六県山岳連盟（協会）連絡協議会報告

平成30年度東北六県山岳連盟（協会）連絡協議会は、５月12日（土）と13日（日）の２日間、岩手県八幡平市の松川温泉で来賓の（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会会長八木原圀明氏をはじめ、東北ブロック六県の会長、理事長、担当部長等23名が出席して開催された。

今回の会議から、全体会議に加えて、中身の濃い意見交換の場にしようとの試みで組織、指導、スポーツクライミングの三分科会を設置して活発な意見交換が行われた。

全体会議では、八木原会長からの講話で、「昨年は、鈴木大地スポーツ庁長官の岩手山山開きにコラボして山の日制定キャンペーンを行い大いに盛り上がりました。また、近年、特にスポーツクライミングの宣伝、マスコミの取材が多くなっていますが、東京オリンピック後が課題であり、パリ大会での正式種目に期待している。登山界は、活性化が課題。具体的な活性化への道筋をつけないと次の時代がない。という思いで力を入れていく必要があります。

予算は、最近まで１億円規模であったが本年度は４億円になっている。組織登山者は、山岳関係団体を含めても８万人ほどで、900万人とも言われる登山者の１パーセントにも満たない組織率である。登山界をいかにリードしていくか悩ましい。１パーセントの組織が99パーセントをいかにリードしていくか。人口減少社会に入り少子高齢化の中どのようにして仲間を増やしていくか難しい時代となってきた。日山協、労山、日本山岳会等と一緒に活動する等幅広く考えなければならない。2020年は、日山協創立60周年となり記念事業、募金活動を展開していきたい。」との要旨のお話を頂きました。

会議初日の全体会では、日山協創立60周年記念事業募金活動についての協力、ジュニア登山教室、山の日制定記念事業補助金の積極的な活用、山岳保険加入の組織的働きかけと共済会助成事業による研修会、登山教室等の積極的な開催について協議した。また、本年度開催の東北総体山岳競技宮城大会の開催要項の最終確認。今後の東北総合体育大会山岳競技開催時期について協議の結果、従来通りの開催時期を確認した。

全体会意見交換では、①高体連顧問の指導研修が喫緊の課題であること。②スポーツクライミングは、地方でも愛好志向者は多いが施設、指導者等対応しきれていない現状で、競技人口の底辺拡大の隘路であること。③岳連（協会）加盟の山岳会数については、少子高齢化の中、総じて微減傾向、高体連登山部の減少が目立っていること。④若手登山指導者が少ない。特にスポーツクライミングの指導者養成が急務。⑤高体連との意思疎通が重要。高校の冬山登山は原則禁止ではあるが登頂を目的としない登山に限って登山計画書審査を経て行われていること。⑥組織に入っていないクライミング愛好者からの大会運営等協力を得るのが難しい。ジム名で岳連加入し指導者不足をカバーしている例、⑦山岳共済会広報では、加入メリットを分かり易く書くこと．還付金制度についての説明。とっつき易くする工夫が必要（まとめ役、振込まで手伝う等）。

今回、特に話題となったのは、高校登山部（山岳部）の冬山登山計画書審査会の在り方で、①画一的な審査には無理がある。審査のガイドラインが必要。山に関わりのない人が審査。②高体連は、夏山合宿が山行活動の中心となっている。夏山も計画書審査会の対象になっている県もある。③県によっては冬山登山に関して、登れる山、自主規制している山の例示、④冬山登山計画に関して審査会の権限、雪山登山の自主規制山域の指定、⑤登山部顧問は、転勤者や初心者が多い。県レベルで顧問講習会を行っている例。岳連（協会）からの協力、コーチ制度の活用、⑥アバランチトランシーバー等の使い方の指導、地図の見方、スマホ活用による位置確認　⑦東北六県高校顧問研修会での計画書審査会メンバーとの懇談の必要性、⑧冬山登山のできる山できない山の自主規制、一般的な山（家族登山対象）まで規制は無理がある。⑨冬山登山の原則禁止への各県の実情の把握（全国高体連）　⑩登山計画審査会制度に係るメンバーについても、高体連１名

入っている県、委員長、部長が入っている県等様々。⑪現状は、岳連（協会）との連携強化の機会でもある。等厳しい気象条件の中で生活している雪国ならではの冬山との関わりの中で現実的な意見提言が多く述べられた。

スポーツクライミングについては、施設の整備が進んでいる県と、そうでない県、ジュニア育成では低年齢化に伴う課題として中学校の部活動に縛られることや大会参加等で公休扱いにしてもらえるかどうかの不安の解消のため中体連との協議やジムとの関係構築していく必要。戦後復興のあかしと言われている国体の意義と国体選手養成の位置づけも変わってきていること。役員もボランティア的な役割から抜け出せないでいるとの意見が出され今後の課題とした。

各山域の登山情報として、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳は現在「噴火警戒レベル１」である。一切経登山直登ルートは立入禁止となっている。早池峰山河原の坊コースは、一部崩壊のため通行止めとなっている。小田越えコース等の利用となること。

（(一社)岩手県山岳協会会長　髙橋時夫記）

平成30年度理事会（第１回）報告

平成30年５月26日（土）（10時30分～14時30分）に東京渋谷のＴＫＰ渋谷カンファレンスセンターで平成30年度理事会（第１回）が開催された。

出席者は、理事23名（欠席１名）、監事３名。

開会に先立ち、八木原会長から「先日、群馬県高体連インターハイ登山大会に出かけて生徒や顧問に聞いてみたら、山岳部の生徒は卒業と同時にほとんどが山から離れてしまうようだ。若者への登山の呼びかけが必要だ。先般出席したＵＡＡＡ理事会でも伝統的な登山の衰退が問題提起された。2019年にカザフで岩壁での岩登り大会が予定されているとの事。理事の見直しについてもご協議して頂きたい。」と挨拶。

議長、議事録署名人を定款に則り選出して、議事に入った。

【議案第１号】平成29年度事業報告の承認

【議案第２号】平成29年度収支決算報告の承認と監事監査報告及び監査所見について

議案第１号と議案第２号は、関連議案のため、続けて提案説明が行われ、議場に諮られた。

競技会運営と競技力向上の運営管理費が予算を上回ったのは何故か、との質疑があり。

ＳＣ部の業務激増による従事割合の変更によって運営管理費が予算オーバーとなった。と回答。

其の後、監事より監査報告と監査所見が述べられた。

議案第１号は、賛成23名、反対０名で可決された。続いて議案第２号も賛成23名、反対０で可決された。

【議案第３号】正会員の入会承認について

会長変更に伴い石澤好文（栃木）、麻田正博（高知）、古川好幸（長崎）３氏の入会が諮られ、賛成23、反対０で承認された。

【議案第４号】理事候補者推薦について

中瀬理事辞任に伴う理事候補者として（公財）全国高等学校体育連盟登山専門部事務局長の谷口浩平氏を総会に推薦することが賛成23、反対０で承認された。

【議案第５号】定款変更について

スポーツクライミング部に関する業務オーバーで４名の常務理事では手が足りない。理事の定数及び在り方について見直しが必要である。唯、これ以上理事の定数を増やすと理事会のフットワークが悪くなる。定数は現状のままにして理事の選考について検討すべきである。重要な案件なので来年の役員改選迄に改定案を検討し、理解を深めたい。今年度の定款変更では、取り敢えず業務執行理事を５名増やして13名以内としたい。と諮られた。

議案第５号は、賛成23、反対０で可決された。

【議案第６号】規程類の改定について

「組織管理運営規程」、「加盟団体規程」、「登録選手規程」の一部改定について諮られ、それぞれ賛成23，反対０で可決された。

【議案第７号】定時総会の招集と議案について

提案通り、賛成23、反対０で可決された。

〈報　告〉

【報告第１号】「来年度の理事見直し」検討について

本報告については議案第５号で説明しているので割愛した。

【報告第２号】平成29年度山岳共済会事業報告及び収支

美麗の島・台湾の最高峰に登頂し、ゆったりと観光も楽しむ
台湾最高峰 玉山(3,952m)登頂 5日間
発着地 東京・大阪・名古屋・福岡
出発日 10/17(水)・10/22(月)・11/5(月)・11/11(日)
旅行代金 242,000円～246,000円
※燃油サーチャージ（2018年５月20日現在：目安約5,000円）が別途必要です。
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第７東洋海事ビル４階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

決算報告について

尾形日山協山岳共済会会長から資料に基づいて報告があった。

続いて内藤監事から資料に基づいて監査報告があった。代理店との委託契約についての見直しを監査所見として言及された。

【報告第３号】創立60周年記念事業募金について

尾形専務理事から資料に基づいて報告があった。

【報告第４号】祝日「山の日」記念事業について

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

【報告第５号】オリンピックに向けての準備状況

小日向常務理事からＩＦ及び組織委員会の動きについて口頭報告があった。

【報告第６号】2019年ＩＦＳＣ総会及び世界選手権について

ＩＦＳＣ総会は３月に東京で、世界選手権は８月にエスフォルタアリーナ八王子で開催することが報告された。

〈その他〉

蛭田常務理事より夏山リーダー制度について説明があった。

以上、14時30分に閉会。

JMSCA

平成30年度4月
常務理事会報告

日　時　平成30年５月17日㈭
18時～21時50分

場　所　岸記念体育会館・４階特別会議室

出席者　八木原会長、亀山、髙橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、合田、蛭田の各常務理事、中畠、古屋監事、16名中13名出席

欠席者　仙石、小日向、町田各常務理事

会議に先立ち、平山副会長から公認大会の今後の展望について説明があった。

１．議　事

⑴平成30年度４月常務理事会・議事録の承認について（事前送付済）
異議なく承認された。

⑵平成29年度事業報告の承認について一部文言訂正で承認。

⑶平成29年度決算報告の承認について
創立60周年募金の引き当てについて監事から指摘があった。
提案通りで承認。
続いて、中畠監事から監事監査報告及び監査所見が報告された。

⑷定款変更と規程の改定について
常務理事の数を８人以内から13人以内とする提案を理事会経由で総会に提案することが承認された。他の文言訂正も同様に承認された。

⑸正会員の入会承認について
石澤好文氏（栃木岳連）が正会員として理事会に諮ることが承認された。

⑹中瀬理事の後任に高体連登山専門部事務局長の谷口浩平氏を推薦する件にについて承認された。

⑺ＪＳＰＯ評議員定数アンケート回答について
②案で回答することが承認された。

⑻定時総会の招集と議案提出について
一部訂正の上承認された。

⑼第２回理事会次第について
一部訂正の上承認された。

⑽2019ＷＣ開催について
ＷＣリード選手権を印西市で、10月～11月に開催することが承認された。

２．報告事項

⑴平成29年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について
尾形日山協山岳共済会会長から資料に基づいて報告があった。
続いて中畠監事から監査報告があった。

⑵ＷＣ結果が資料に基づいて報告された。

⑶新館引っ越し手順について説明があった。

⑷平成32年度第59回全日本登山大会の開催地辞退（鹿児島）の報告があった。

⑸アジア競技大会経費負担について
アディショナル・オフィシャル公式支給品（有料）費用の協会負担を説明。

⑹環境省、Ｈ30年度自然公園指導員局長表彰に須田久男氏（群馬岳連）を推薦。

⑺江戸川区スポーツ夢基金事業活動支援交付対象者について報告。

⑻2019年～2020年の競技大会について報告。

⑼コンバインドジャパンカップの開催要項の説明。

⑽八王子ボルダリングワールドカップ準備状況について

３．指導員・審判員　検定結果報告

⑴山岳上級指導員の認定
岩登り技術（10月，福島）、氷雪技術（２月、大山）
以下の１名を認定とする。
武藤末久（神奈川）

⑵スポーツクライミング指導員認定
申請者：広島県山岳連盟
藤木友博、平田昌也、齊藤祥範、柴本詳、友安眞由美、田坂耕一，大藪正明、牛尾暢宏、錦織瀬奈、中峠勝貴、西川省吾、塩田徹，河野洋磁、古矢拓真、勝野宏美、河村英治、野村希、松本敏宏
以上、異議なく承認された。

４．後援報告、協賛等の依頼について

⑴第３回全国「山の日」フォーラム後援名義（全国山の日協議会）

⑵山梨岳連「山岳遭難シンポジウム」共催名義申請

⑶加須クライミングカップ後援申請
以上３件、異議なく承認された。

５．専門委員会動静（４月11日～５月16日）

⑴国際委員会
４月11日㈬　出席者７名　委任３名

ア）報告事項
・日体協名称変更について
・キルギス レーニン峰90周年イベントについて
・ＡＡＣクライマーズミートについて

イ）協議事項
①平成30年度総会／第57回海登研について（６/23、24、栃木県青年会館コンセーレ 小ホール）
②組織・管理運営規定の改定に伴う常任委員、専門委員の選任について
③国内外に向けてのＨＰ案について

⑵国際委員会－２
５月８日㈫　出席者６名　委任４名

ア）報告事項
・大宮常任委員の逝去について
お別れの会の準備について
・栃木岳連ロブジェ・イースト隊の死亡事故について
・平成30年度の委員委嘱について
委員長：澤田、副委員長：鈴木、常任委員：岩崎、落合、加藤、烏、河内、笹原、貫田、石賀、専門委員：浅野、近藤、佐伯、藤田
・ＡＡＣクライマーズミートについて

イ）協議
①平成30年度総会／第57回海登研（６/23、24、栃木県青年会館コンセーレ 小ホール）について
②国内外に向けてのＨＰ案について
③海外登山懇談会（11/15（木）19：00～オリセン80人部屋）について

⑶選手強化委員会
４月26日㈭　出席者５名

ア）協　議
①スピードワールドカップへの出場について
②八王子ＷＣ大会の強化委員会枠の利用について（楢崎明智を推薦）
③ＨＰＳ（ハイパフォーマンスサポート）の現状と取り組みと活用について
④世界選手権選考基準について
⑤今後のスケジュールについて

イ）報　告
①競技大会・合宿報告について
②2018年ＩＦＳＣルールによる混乱（ＢＷＣ第１戦、第２戦）について

ウ）その他
①コンディショニングソフトの導入について
②大会視察について
③スピード記録会のこれから
④大阪スピード記録会

⑷共済委員会

４月25日㈬　出席者５名

ア）平成29年度事業報告及び収支決算報告について
①平成29年度の山岳共済会加入者は、55,604人（前年比239人減）。
②加入者の平均年齢は、59.６歳
③29年度収支決算報告として貸借対照表、収支計算書、財産目録の報告があり、収支決算では、320万円の赤字予算であったが、237,838円赤字の決算となった。
⑤監査：５月11日㈮10時～
瀬田委員も同席
イ）加入者促進対策について
①チラシ配布（トレラン保険、クライミング保険、共済会栞）について
②ヤマレコ（ブラインド・アカウントの変更）：松隈氏に依頼済
③山岳共済マスコットについて
ウ）山岳共済会独自事業について
①アヴァランチ・トランシーバーの貸出について
②プロモーション・ビデオの作成
エ）その他
①保険の新商品の開発について
②１ｄａｙ保険の取扱いについて
③30年度常任委員の選考について
④栞の納品時の梱包についての要望

⑸広報委員

４月25日㈬　出席者３名

ア）報　告
①『登山月報』（定期刊行）５月号の編集について
イ）協　議
①「登山月報の編集について
②ＨＰ更新について

⑹指導委員会

５月７日㈪　出席者９名　委任７名

ア）報　告
①夏山リーダー制度について
・４月21,22日山岳スポーツセンターで
イ）検討事項
①富士山氷雪技術研修会について
・参加者：研修13名、Ａ級主任５名、上級17名、講師８名、山梨岳盟５名、総勢48名。
②Ａ級主任の判定について
以下の５名全員を合格とする。
七宮勝広（福島）、方山文生（兵庫）、佐藤誠（岩手）、土井祐之（岩手）、秋庭栄（埼玉）
③上級指導員（氷雪技術）の判定について
以下の16名を氷雪技術の合格とする。宮下直人（茨城）、中島隆之（岩手）、田所一志（岩手）、折原将斗（埼玉）、田口浩昭（埼玉）、櫻井洋一（宮城）、栗島次郎（東京）、小暮洋一（東京）、髙野慎一郎（静岡）、宮﨑玲充（東京）、福嶋秀和（東京）、鈴木真琴（東京）、菅沼俊吉（東京）、廣瀬学（東京）、秋山誠一郎（東京）、小林千文（東京）
④指導委員会主催の山岳上級指導員の認定について
岩登り技術（10月、福島）、氷雪技術（２月、大山）
以下の１名を認定とする。
武藤末久（神奈川）
⑤スポーツクライミング指導員認定
申請者：広島県山岳連盟
藤木友博、平田昌也、齊藤祥範、柴本詳、友安眞由美、田坂耕一、大藪正明、牛尾暢宏、錦織瀬奈、中峠勝貴、西川省吾、塩田徹、河野洋磁、古矢拓真、勝野宏美、河村英治、野村希、松本敏宏
⑥2018年度のＳＣコーチおよび上級コーチ養成講習会の開催について
⑦新指導者制度について

⑺山岳スキー委員会

５月９日㈬ネット会議　出席者７名　委任１名

ア）報　告
・大会予定について
５/11-16　中国青海省Gangshika山2018World Ski Mountaineering Masters（〆切４/23）
イ）協議事項
①第12回日本選手権報告について
（４/14、15、栂池高原）
・参加申込61名、出走者58名、完走57名。
②ＩＳＭＦ総会（６/15-16　ポーランド・ザコパネ）について（松澤委員派遣予定）
③今夏にできることについて

⑻遭対委員会

４月25日㈬　出席者10名、スカイプ２名

１）夏山リーダーについて
・４月21,22日神奈川サンスポにてテキスト内容の最終確認実施。
19年ＵＩＡＡ認証取得に向けて動き出した。青山よりSteveに夏山リーダーに関する認証取得希望を説明し快諾いただいた。日本側の窓口や体制作りが今後急務である。特に講習内容の統一、質の保証、評価の妥当性etc今後作りこみが必要である。
イ）遭対委員会研修について
・５月19～20日、埼玉県上尾スポーツ総合センター
・遭対委員会新組織について再確認。
・遭難防止、減遭難への取り組み
・30年度事業の確認。
・夏山リーダー制度への取り組み。
・ＡｖＳＡＲへのかかわり方について
・６月全国委員長会議兼総会準備
ウ）全国遭難対策委員長会議兼日山協遭対委員会総会について
６月23日～24日、東京晴海・海員会館
エ）４月以降の遭対委員会委員体制について
専門委員について追加変更。島添（兵庫）前回名簿から漏れていた。岩切（神奈川）都合により勇退。町田雅美（群馬）追加。以上、専門委員は12名とする。

６．その他の重要事項（４月13日～５月17日）

⑴山岳スキー選手権
４月14日㈯～15日㈰　於：栂池高原
八木原会長、澤田委員長
⑵スポーツ指導者育成事業事務担当者会議
４月18日㈬～19日㈭　於：ＴＫＰ市ヶ谷カンファレンス　蛭田常務理事
⑶ＵＩＡＡ登山部会
４月21日㈯～22日㈰　於：ポルトガル・リスボン　青山副委員長
⑷第73回福井国体 第１回基準会議
４月21日㈯～22日㈰　於：福井県池田町　西原委員長
⑸2017年度ミズノスポーツ・メントール賞表彰・祝賀会　４月24日㈫　於：グランドプリンスホテル新高輪
尾形専務理事
⑹立元会計士による29年度決算確認
４月24日㈫～25日㈬　於：事務局
尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
⑺第１回コンバインドジャパンカップ実行委員会　４月26日㈭　於：盛岡　村岡

寄贈図書

雑誌	JSPO	Sport Japan
	(株)山と溪谷	「山と溪谷」No.998
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.852
会報	玲峰グループ	玲峰 Vol.87
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第611号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》264
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.481
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第558号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ」通巻580号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第60号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.232
	La rivista del Club alpino Italiano	Montagne360, 2018.4
	豊岡市立植村直己冒険館	植村直己冒険館だより第19号
	日本武術太極拳連盟	武術太極拳 №344
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.520
	新潟県山岳協会	新山協ニュース 第336号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.95 NO.1059
	(公社)日本山岳会	「山」No.876
	おいらく山岳会	山行手帖 No.702
	日本山岳写真協会	日本山岳写真協会ニュース 第452号

常務理事
⑻氷雪技術研修会
4 月 28 日㈯～ 29 日㈰　於：富士山
蛭田常務理事他
⑼業務及会計監査
5 月 9 日（水）～ 10 日㈭　於：岸記念体育会館　内藤監事、中畠監事、古屋監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
⑽東北六県山岳連盟（協会）連絡協議会
5 月 12 日㈯～ 13 日㈰　於：岩手県松川温泉　八木原会長
⑾日本山岳ガイド協会総会
5 月 15 日㈫　於：弘済会　八木原会長

表紙のことば

『登山月報』4 月号より表紙写真をシッキム・ヒマラヤの高峰写真としました。4 月号は、ゼム氷河から見る黎明のカンチェンジュンガ（8,598 m）でした。5 月号は、D.W. フレッシュフィールドに地上最美の山と言わしめたシニオルチュー（6,887 m）のタンチェン・ラ（峠）から対峙した写真でした。今月号は、チャンサン氷河からのテント・ピーク（7,365 m）です。A.M. ケラス博士も最初にこちら側からこの山容を見たらテント・ピークとは命名しなかったのではないでしょうか。

（写真撮影者・尾形好雄）

編集後記

名称変更と組織体制を強化して 1 年になる。スポーツクライミング部は 2020 東京オリンピックに向って一段とギヤアが入り協会内外での隆盛は極まる。もう一輪の登山は「夏山リーダー制度」の名称で登山者（一般、未組織）への安全登山教育実施が今年度ようやく始まる。ＪＳＰＯ（日体協）やＵＩＡＡと整合性のとれた仕組みのようだが登山者への広報をどのように展開するかが課題である。講習会風景や宣伝用動画をネットに流すのは有効であるが、加盟団体（岳連・協会）との連携が必須条件であることは間違いない。　（広報担当 水島彰治）

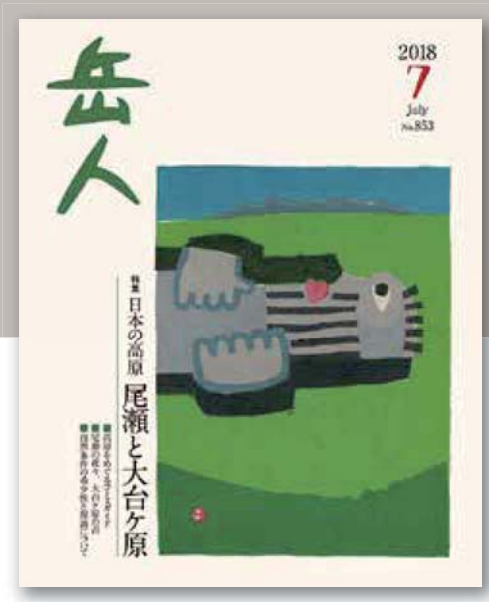
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
☎042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
事務局　〒252−0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545−1
TEL 042-687−4011　FAX 042-687−3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 道志村トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
◦ 上野原秋山トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

登山月報　第 591 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　平成30年 6 月15日
発行者　東京都渋谷区神南 1−1−1
岸記念体育会館内
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03 − 3481 − 2396
ＦＡＸ　03 − 3481 − 2395

山岳雑誌 岳人
山と人、時代をつなぐ「岳人」（がくじん）



7月号 発売中
【特 集】日本の高原 尾瀬と大台ケ原
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格815円(+税)

年間購読がおすすめです。
購読割引　送料無料　限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常本体価格12冊 ~~9,780円~~(+税) → 年間購読12冊 8,965円(+税)
1年間で815円 1冊分無料

年間購読特典　岳人オリジナルグッズをプレゼント！
岳人フォールディングスポーク
フィールドで活躍するスプーン&フォーク。岳人オリジナルケース付き。
※色はお選びいただけません

▲折りたたみ時
さらに
はじめてお申し込みの方に

岳人ピンバッジ
ご継続の方に

オリジナルBOX

年間購読お申し込み方法
◉ウェブサイトで http://www.gakujin.jp/
◉全国のモンベルストアで http://store.montbell.jp/
お問い合わせ（モンベルポスト）0120-982-682 TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。

公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト（www.jma-sangaku.or.jp/mobile/）

WEBからもお申込みいただけます（ www.sangakukyousai.com ）